

高校生の志望学部系統選択に関する一考察

—進学中堅校の調査結果から見られる特徴—

竹内 正興 (香川大学)

本研究は、進学中堅校に在籍する高校生の志望学部系統選択の特徴について、アンケート調査から検討することを目的とする。調査の結果、学部系統の志望度（志望の強さ）については、医・歯・薬学、保健学、教育学といった資格取得が就職に直結する学部系統のスコアが高い結果となった。一方、志望理由については、「学びたい学部系統だから」が学部系統に関わらず高い傾向が女子を中心に見られた。また、保健学系統を中心に、生徒本人の意見と家族の意見の双方が重視される傾向が窺えた。先行研究では、高校階層によって進路意識が分化し、進学中堅校の生徒の進学意識の変動が大きいことが指摘されているが、本調査においては、大学入学後の学びや就職、資格取得を意識して学部系統を志望する傾向が見られた。

キーワード：志望学部系統の選択、進学中堅校、学部系統の志望理由

1 問題の所在

本研究は、進学中堅校¹⁾に在籍する高校生の志望学部系統選択の特徴について、アンケート調査から検討することを目的とする。

大学入学や大学進学という表現は、関連する調査・研究をはじめ一般的に使用されているが²⁾、実際には、学部横断型の括り入試等の一部の募集形態を除き、各大学に設置された学部・学科等の専門の学問領域に入学することになる。したがって、大学受験で志望校を決めることは、学びたい学部・学科を決めることである(螢雪時代, 2020)、大学選びよりも重要な学部選び。学部選びをして、その上で大学を選ぶべき(ココナラマガジン, 2020)などの指摘に見られる通り、志望する学部系統の選択は、大学選択と同等、もしくは、それ以上に重要な選択となると考えられる。

しかしながら、入学した学部の入学前のイメージとのギャップについて、60%以上が、ギャップがあると回答している調査結果がある(スタディサプリ進路, 2000)。また、山田(2012)は、進学した大学の学部に対する現在の気持ちを、全国の大学生を対象とした調査結果(n=4911)から、不満足な気持ちを持って大学に入学している入学者の割合が全体平均で22.0%、学部系統別に見た場合、「人文科学(20.7%)」、「社会科学(25.5%)」、「理工(23.7%)」、「農水産(15.8%)」、「保健・医歯薬(18.7%)」、「教育(18.0%)」と学部系統間で差が見られることを示している。つまり、学部系統の選択自体は入学者自身によるものであるが、その志望度は一律ではないことが考えられる。

一方で、大学進学を目指す生徒が在籍する高校の階

層構造が変化していることが指摘されている。樋田(2001)は、「高校の階層が、輪切りにスライスされた構造から、少数の上位校(および一部の中上位校)とそれ以下の中位以下の高校群とに二極化された構造になった」と述べている。この高校の階層構造について、耳塚(2007)は、「上位校であるエリート進学校の生徒文化は維持されている」と指摘している。また、濱中(2019)は、首都圏の3~4番手の進学中堅校に対する調査において、複数の生徒から「無理をしない程度にやって、無理をしなくてよい所に進学します」という趣旨の話を聞いたことや、「受験に合格できそうでも、進学した後に勉強についていけなさそうな学校であれば、進学先として選ばない」という質問項目に「あてはまる」と回答した生徒が、地域のトップ進学校16.5%に対し、進学中堅校は45.7%であった結果を示し、進学意識の面から高校間の分化が起こったと述べている。さらに、濱中(2019)は、高校教員との議論の中から、進学校と進学中堅校の男女によって学びやモチベーションの上げ方が異なる可能性に着目し、進学先の選択において「進学中堅校女子は資格に興味がある領域を好む傾向がある」と、進学中堅校の女子の特徴を指摘している(表1)。これらの指摘からは、高校生の進学意識が、トップ進学校では従来から大きく変わっていないのに対し、進学中堅校では変動していることが窺える。

そこで本稿では、進学意識が変化していることが考えられる進学中堅校に通う生徒の学部系統選択における志望状況について、「学部系統によって志望理由に差が見られる(項目がある)のか」、「性別によって志望

理由に差が見られる（項目がある）のか」という二つの問いを立て、進学中堅校（3校）の生徒に対する調査結果から検討を行う。

表1 進学先として考えている学部系統上位5位
(進学中堅校 男女別)

男子		女子	
ビジネス・経済	21.1%	外国語・国際	16.6%
電気・機械	13.7%	教育・保育	16.4%
法律・政治	13.3%	医療・看護・保健	14.5%
教育・保育	11.2%	文学・歴史	11.4%
情報・コンピュータ	10.1%	食物・栄養・調理	9.9%

山村滋・濱中淳子・立脇洋介 (2019) .『大学入試改革は高校生
の学習行動を変えるか』ミネルヴァ書房, 89より。

2 調査概要

2.1 調査時期・対象・方法

北関東地区に所在する3つの公立進学中堅校の2年生549人(男子273人, 女子276人)に対して、2020年12月に実施したアンケート調査を分析の対象とした。なお、3校のうち、1校は共学校、2校は別学校(男子校1校, 女子校1校)からの回答結果となっている。

2.2 質問項目

本調査の質問項目は以下の通りである。なお、アンケート用紙には、記入、または、選択したくない質問項目があった場合は、「空欄のまま構いません」という注意書きをつけている。

- ① 学年(記入形式)
- ② 性別(男子, 女子から一つを選択)
- ③ 現在の志望学部系統

「1:人文科学系(外国語, 国際を含む)」「2:法学・政治学」, 「3:経済学・経営学・商学」, 「4:理学系」, 「5:工学系」, 「6:農・水産学系」, 「7:獣医学」, 「8:医学・歯学・薬学」, 「9:保健学」, 「10:家政系」, 「11:教育系」, 「12:芸術系」, 「13:総合系」, 「14:その他」から一つ選択。

- ④ 志望の強さ(5件法)

「5:強い」, 「4:まあ強い」, 「3:どちらともいえない」, 「2:あまり強くない」, 「1:強くない」から一つ選択。

- ⑤ 志望学部系統を選んだ理由(5件法)

「1:学びたい学部系統だから」, 「2:就職に有利そうだから」, 「3:受験で得意な科目をいかせそうだから」, 「4:志望する学部系統と先生の勧めが

一致したから」, 「5:志望大学の合格の可能性を高める学部系統だから」, 「6:他にいきたい学部系統がなかったから(消去法での選択)」, 「7:志望する学部系統と家族の意見が一致したから」, 「8:受験で苦手な科目を避けるため」, 「9:自分では決めかねていたので, 家族の勧めに従った」, 「10:自分では決めかねていたので, 先生の勧めに従った」, 「11:友だちなど, 周囲の人たちが志望する学部系統だから」, 「12:資格や免許を取得するため」, 「13:志望大学に進学できれば, 学部系統にはこだわらない」の13項目について, それぞれ「5:あてはまる」, 「4:まああてはまる」, 「3:どちらともいえない」, 「2:あまりあてはまらない」, 「1:あてはまらない」から一つ選択。

2.3 分析手法

学部系統における志望度と志望理由について, 単純集計(5件法で質問項目に対し最も肯定的に回答した選択肢を5点, 最も否定的に回答した選択肢を1点とする5点満点による平均スコア)により傾向を把握した上で, 設定した二つの問い(「学部系統によって志望理由に差が見られる(項目がある)のか」, 「性別によって志望理由に差が見られる(項目がある)のか」)について, 統計的に有意差が見られるのかどうかを検証する。

3 結果 学部系統の志望度と志望理由(全体, 学部系統別, 男女別)

はじめに, 被験者が志望する学部系統の割合と志望度(志望の強さ)を整理する。表2は, 学部系統別志望者の割合(全体・男女別)である。全体では, 人文科学系(17.1%), 保健学, 工学系(16.0%)の順に高かった。これを男女別に見ると, 男子では工学系(26.4%), 経済・経営・商学(15.4%), 女子では, 人文科学系(26.4%), 保健学(19.2%)の順となった。この男女別の割合を先行研究で示した表1と比較すると, 男子では工学系の志望者の割合が高く, 女子では保健学の割合がより高い結果となった。

表3は, 学部系統別志望度(全体・男女別)である。全体では, どの学部系統も5点満点で4点を超えている。また, 男女とも志望度が高かった上位3位が, 医・歯・薬学, 保健学, 教育系であった。専門の資格を取得することがそのまま就職に直結するイメージが持ちやすい学部系統の志望度が高い結果となった。

表2 学部系統別志望者の割合 (全体・男女別)

学部系統	全体割合	学部系統	男子割合	学部系統	女子割合
人文科学系	17.1%	工学系	26.4%	人文科学系	26.4%
保健学	16.0%	経済・経営・商学	15.4%	保健学	19.2%
工学系	16.0%	保健学	12.8%	教育系	12.7%
教育系	12.0%	教育系	11.4%	経済・経営・商学	8.7%
経済・経営・商学	12.0%	理学系	10.6%	法・政治学	5.8%
理学系	8.0%	人文科学系	7.7%	工学系	5.8%
法・政治学	6.2%	法・政治学	6.6%	理学系	5.4%
医・歯・薬学	4.2%	医・歯・薬学	5.5%	医・歯・薬学	2.9%
その他	7.5%	その他	2.2%	その他	12.7%

志望者の割合の高い順に記載。「農・水産学系」、「獣医学」、「家政系」、「芸術系」、「総合系」は志望者数が10人未満だったため、「その他」に含めた。

表3 学部系統別志望度 (全体・男女別)

学部系統	全体平均スコア	学部系統	男子平均スコア	学部系統	女子平均スコア
医・歯・薬学	4.57	医・歯・薬学	4.53	医・歯・薬学	4.63
保健学	4.38	保健学	4.37	教育系	4.43
教育系	4.32	教育系	4.19	保健学	4.38
理学系	4.16	人文科学系	4.10	理学系	4.33
人文科学系	4.12	経済・経営・商学	4.10	法・政治学	4.19
法・政治学	4.09	工学系	4.07	工学系	4.13
工学系	4.08	理学系	4.07	人文科学系	4.12
経済・経営・商学	4.02	法・政治学	4.00	経済・経営・商学	3.88

志望度の平均スコア (5点満点) の高い順に記載。

次に、志望理由について、まず、志望理由として質問した13項目の各平均スコア (全体) を見たところ、「1: 学びたい学部系統だから」が全体で4.53と最も高かった (表4)。平均スコアで4点を超えているのはこの一項目のみであり、学びたいから志望するという

ことが学部系統の志望理由の根幹にあることが確認された。次いで、「2: 就職に有利そうだから」(3.61)、「12. 資格や免許を取得するため」(3.41)、「3: 受験で得意な科目をいかせそうだから」(3.40)の順となった。

男女別では、「1: 学びたい学部系統だから」が男子4.37、女子4.69とそれぞれ最も高かった。しかし、平均スコア差は0.32ポイントあり、男女間で統計的有意差が見られた。また、「5: 志望大学の合格の可能性を高める学部系統だから」、「6: 他にいきたい学部系統がなかったから (消去法での選択)」、「8: 受験で苦手な科目を避けるため」、「13. 志望大学に進学できれば、学部系統にはこだわらない」、「9: 自分では決めかねていたので、家族の勧めに従った」、「10. 自分では決めかねていたので、先生の勧めに従った」、「11. 友だちなど、周囲の人たちが志望する学部系統だから」では、全体の平均スコアがすべて3点を下回っているものの、男子の平均スコアが女子よりも高く、それぞれ統計的有意差が見られた。一方、先行研究で示された「進学中堅校女子は資格に関係がある領域を好む傾向がある」について、本調査では、「12. 資格や免許を取得するため」について、女子の平均スコアが男子よりも高かったが、統計的有意差は見られなかった。

表4 学部系統の志望理由 (全体・男女別) の平均スコア t検定

	全体	男子	女子	差 (男-女)	p値	判定
1. 学びたい学部系統	4.53	4.37	4.69	-0.32	0.00	**
2. 就職に有利	3.61	3.68	3.54	0.13	0.16	
12. 資格や免許取得のため	3.41	3.36	3.46	-0.10	0.41	
3. 得意科目をいかせる	3.40	3.46	3.34	0.12	0.15	
7. 志望と家族の勧め一致	3.05	3.06	3.04	0.01	0.89	
5. 合格の可能性を高める	2.74	2.88	2.60	0.28	0.00	**
4. 志望と先生の勧め一致	2.49	2.49	2.49	0.00	0.98	
6. 志望なし (消去法)	2.24	2.41	2.07	0.34	0.00	**
8. 苦手科目を避ける	2.22	2.34	2.11	0.24	0.01	*
13. 志望大学 > 学部	2.04	2.37	1.70	0.67	0.00	**
9. 決められず家族の勧め	1.84	1.97	1.71	0.25	0.00	**
10. 決められず先生の勧め	1.70	1.85	1.56	0.29	0.00	**
11. 友だち・周囲が志望	1.63	1.87	1.39	0.49	0.00	**

全体の平均スコアが高い順に記載。 * p<0.05 ** p<0.01

表5は、学部系統ごとの志望理由を質問項目別に一覧にしている。また、学部系統間で統計的有意差が見られた志望理由と、どの学部系統間で統計的有意差が見られたのかをそれぞれ示したのが、表6～表13で

ある。まず、表5を見ると、「1: 学びたい学部系統だから」は、教育系を除き最も高い平均スコアとなった。次に、専門の資格を取得して就職する学部系統である医・歯・薬学、保健学、教育系については、「2: 就職に有利そうだから」、「12. 資格や免許を取得するため」、「7: 志望する学部系統と家族の意見が一致したから」の平均スコアが全体と比較して 10%以上高い傾向が見られた。これらの項目は、統計的分析によっても、医・歯・薬学、保健学、教育系とその他の学部系統間を中心に有意差が見られることが確認できる(表6～表11)。

続いて、全体の平均スコアは 2.22 と低いものの、「8: 受験で苦手な科目を避けるため」について、教育系の平均スコア (1.85) が人文科学系 (2.43), 法・政治学 (2.56), 経済・経営・商学 (2.45) といった文

系の各学部系統よりも低く、5%水準で有意差が見られた(表12, 表13)。

また、統計的有意差は確認できなかったものの、「13. 志望大学に進学できれば、学部系統にはこだわらない」について、理学系、法・政治学、工学系、経済・経営・商学の平均スコアが全体と比較して 10%以上高い結果となった。一方、保健学では、「9: 自分では決めかねていたので、家族の勧めに従った」の平均スコアが 2.14 と全体の 1.84 よりも 0.3 ポイント高かった。最後に、人文科学系を志望する高校生は、「2: 就職に有利そうだから」のスコアが全体平均よりも 20%以上低く、他の学部系統と比較した場合、学部系統の選択段階において、大学卒業後の就職を意識する度合いが低い可能性が窺われた。

表5 学部系統の志望理由 (学部系統別)

	医・歯・薬学		保健学		教育系		理学系		人文科学系		法・政治学		工学系		経済・経営・商学		全体
	平均	指数	平均	指数	平均	指数	平均	指数	平均	指数	平均	指数	平均	指数	平均	指数	
1.学びたい学部系統	4.61	1.02	4.59	1.01	4.48	0.99	4.50	0.99	4.70	1.04	4.35	0.96	4.47	0.99	4.35	0.96	4.53
2.就職に有利	4.41	1.22	4.11	1.14	3.62	1.00	3.55	0.98	2.82	<u>0.78</u>	4.15	1.15	3.59	0.99	3.94	1.09	3.61
12.資格や免許取得のため	4.52	1.33	4.53	1.33	4.50	1.32	2.91	<u>0.85</u>	2.59	<u>0.76</u>	3.29	0.97	3.08	<u>0.90</u>	2.48	<u>0.73</u>	3.41
3.得意科目をいかせる	3.30	0.97	3.35	0.99	3.36	0.99	3.75	1.10	3.53	1.04	3.50	1.03	3.38	0.99	3.35	0.98	3.40
7.志望と家族の勧め一致	3.39	1.11	3.56	1.17	3.38	1.11	2.75	<u>0.90</u>	3.03	0.99	3.00	0.98	2.70	<u>0.89</u>	2.91	0.95	3.05
5.合格の可能性を高める	2.35	<u>0.86</u>	2.95	1.08	2.74	1.00	2.91	1.06	2.65	0.97	2.71	0.99	2.66	0.97	2.88	1.05	2.74
4.志望と先生の勧め一致	2.04	<u>0.82</u>	2.66	1.07	2.62	1.05	2.66	1.07	2.46	0.99	2.71	1.09	2.33	0.94	2.53	1.02	2.49
6.志望なし(消去法)	2.09	0.93	2.13	0.95	2.05	0.91	2.30	1.03	2.31	1.03	2.32	1.04	2.41	1.08	2.50	1.12	2.24
8.苦手科目を避ける	2.00	<u>0.90</u>	2.28	1.03	1.85	<u>0.83</u>	2.14	0.96	2.43	1.09	2.56	1.15	2.17	0.98	2.45	1.11	2.22
13.志望大学>学部	1.65	<u>0.81</u>	1.95	0.96	1.86	0.91	2.41	1.18	1.84	<u>0.90</u>	2.26	1.11	2.25	1.10	2.39	1.17	2.04
9.決められず家族の勧め	1.87	1.02	2.14	1.16	1.94	1.05	1.82	0.99	1.71	0.93	1.76	0.96	1.80	0.98	1.92	1.05	1.84
10.決められず先生の勧め	1.70	1.00	1.73	1.02	1.74	1.02	1.82	1.07	1.56	0.92	1.79	1.06	1.76	1.04	1.83	1.08	1.70
11.友だち・周囲が志望	1.57	0.96	1.74	1.07	1.59	0.98	1.72	1.06	1.48	0.91	1.52	0.93	1.74	1.07	1.80	1.11	1.63

全体の平均スコアよりも 10%以上高いスコアに網掛け、10%以上低いスコアに下線を引いている。

表6 学部系統の志望理由 (学部系統別)

「2: 就職に有利そうだから」 分散分析

変動	平方和	自由度	平均平方	F値	p値	判定
グループ間	110.32	7	15.76	16.83	0.00	**
グループ内	459.76	491	0.94			
合計	570.08	498				

* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$

表7 学部系統の志望理由 (学部系統別)

「2:就職に有利そうだから」 多重比較検定 (Tukey)

水準1	水準2	平均1	平均2	差	統計量	p値	判定
人文	法・政治	2.82	4.15	1.33	6.86	0.00	**
人文	経済・経営	2.82	3.94	1.12	7.20	0.00	**
人文	理学	2.82	3.55	0.73	4.12	0.00	**
人文	工学	2.82	3.59	0.78	5.38	0.00	**
人文	医歯薬	2.82	4.41	1.59	6.94	0.00	**
人文	保健	2.82	4.11	1.30	8.98	0.00	**
人文	教育	2.82	3.62	0.81	5.16	0.00	**
理学	医歯薬	3.55	4.41	0.86	3.42	0.01	*
理学	保健	3.55	4.11	0.57	3.18	0.03	*
工学	医歯薬	3.59	4.41	0.82	3.55	0.01	**
工学	保健	3.59	4.11	0.52	3.58	0.01	**
医歯薬	教育	4.41	3.62	0.79	3.31	0.02	*
保健	教育	4.11	3.62	0.49	3.13	0.03	*

統計的有意差が見られた学部系統を記載。

* $p<0.05$ ** $p<0.01$

表8 学部系統の志望理由 (学部系統別)

「12. 資格や免許を取得するため」 分散分析

変動	平方和	自由度	平均平方	F値	p値	判定
グループ間	357.92	7	51.13	39.95	0.00	**
グループ内	632.23	494	1.28			
合計	990.15	501				

* $p<0.05$ ** $p<0.01$

表9 学部系統の志望理由 (学部系統別)

「12. 資格や免許を取得するため」 多重比較検定 (Tukey)

水準1	水準2	平均1	平均2	差	標準誤差	統計量	p値	判定
人文	法・政治	2.59	3.29	0.70	0.23	3.10	0.04	*
人文	医歯薬	2.59	4.52	1.93	0.26	7.33	0.00	**
人文	保健	2.59	4.53	1.94	0.17	11.55	0.00	**
人文	教育	2.59	4.50	1.91	0.18	10.48	0.00	**
法・政治	経済・経営	3.29	2.48	0.81	0.24	3.39	0.01	*
法・政治	医歯薬	3.29	4.52	1.23	0.31	4.02	0.00	**
法・政治	保健	3.29	4.53	1.24	0.23	5.43	0.00	**
法・政治	教育	3.29	4.50	1.21	0.24	5.05	0.00	**
経済・経営	工学	2.48	3.08	0.59	0.18	3.23	0.02	*
経済・経営	医歯薬	2.48	4.52	2.04	0.27	7.44	0.00	**
経済・経営	保健	2.48	4.53	2.05	0.18	11.12	0.00	**
経済・経営	教育	2.48	4.50	2.02	0.20	10.23	0.00	**
理学	医歯薬	2.91	4.52	1.61	0.29	5.54	0.00	**
理学	保健	2.91	4.53	1.63	0.21	7.78	0.00	**
理学	教育	2.91	4.50	1.59	0.22	7.23	0.00	**
工学	医歯薬	3.08	4.52	1.44	0.26	5.44	0.00	**
工学	保健	3.08	4.53	1.45	0.17	8.53	0.00	**
工学	教育	3.08	4.50	1.42	0.18	7.71	0.00	**

統計的有意差が見られた学部系統を記載。

* $p<0.05$ ** $p<0.01$

表10 学部系統の志望理由 (学部系統別)

「7:志望する学部系統と家族の意見が一致したから」

分散分析

変動	平方和	自由度	平均平方	F値	p値	判定
グループ間	47.97	7	6.85	4.83	0.00	**
グループ内	697.34	492	1.42			
合計	745.30	499				

* $p<0.05$ ** $p<0.01$

表11 学部系統の志望理由 (学部系統別)

「7:志望する学部系統と家族の意見が一致したから」

多重比較検定 (Tukey)

水準1	水準2	平均1	平均2	差	統計量	p値	判定
経済・経営	保健	2.91	3.56	0.65	3.37	0.02	*
理学	保健	2.75	3.56	0.81	3.69	0.01	**
工学	保健	2.70	3.56	0.86	4.77	0.00	**
工学	教育	2.70	3.38	0.67	3.48	0.01	*

統計的有意差が見られた学部系統を記載。

* $p<0.05$ ** $p<0.01$

表12 学部系統の志望理由 (学部系統別)

「8:受験で苦手な科目を避けるため」 分散分析

変動	平方和	自由度	平均平方	F値	p値	判定
グループ間	22.20	7	3.17	2.66	0.01	*
グループ内	589.73	495	1.19			
合計	611.94	502				

* $p<0.05$ ** $p<0.01$

表13 学部系統の志望理由 (学部系統別)

「8:受験で苦手な科目を避けるため」

多重比較検定 (Tukey)

水準1	水準2	平均1	平均2	差	統計量	p値	判定
人文	教育	2.43	1.85	0.58	3.29	0.02	*
法・政治	教育	2.56	1.85	0.71	3.08	0.04	*
経済・経営	教育	2.45	1.85	0.61	3.19	0.03	*

統計的有意差が見られた学部系統を記載。

* $p<0.05$ ** $p<0.01$

4 考察とまとめ

問いの設定とアンケート調査の結果を踏まえ、調査対象とした進学中等校に在籍する高校生の志望学部系統の特徴について、次の三点を指摘したい。

一点目は、進学中堅校について、先行研究では、トップ進学校とは異なり、強い進学意識が見られない傾向が指摘されていたが、本調査（北関東地区に所在する公立進学中堅校）からは、就職や資格取得、また、他者からの勧めよりも学びたいことを基準として学部系統の選択を行う傾向が見られたことである。本研究の調査対象校が地方に所在する進学中堅校であり、先行研究における都市部の進学中堅校との差異の可能性が示唆されたことが考えられる。

二点目は、資格取得が就職に直結する学部系統の志望理由の強さは、家族の勧めとも一致しているという傾向が見られたことである。これらの学部系統の志望については、本人の希望だけでなく、家族の意向も強く働いていることが窺える。

三点目は、志望理由を男女別で見た場合、男子よりも女子の方が学びたいという理由から学部系統を志望すること、また、学部系統選択を大学入試に合格するための戦略と位置付ける度合いが低く、他者に流されず主体的に選択する傾向にあるということである。この傾向は、志望理由として、「1：学びたい学部系統だから」の女子の平均スコアが4.69と3/4以上（回答者273人中206人（75.5%））がこの志望理由に対して「5：あてはまる」と回答していること（男子は回答者273人中139人（50.9%））、また、「5：志望大学の合格の可能性を高める学部系統だから」、「6：他にやりたい学部系統がなかったから（消去法での選択）」、「8：受験で苦手な科目を避けるため」、「13. 志望大学に進学できれば、学部系統にはこだわらない」、「9：自分では決めかねていたの、家族の勧めに従った」、「10. 自分では決めかねていたの、先生の勧めに従った」、「11. 友だちなど、周囲の人たちが志望する学部系統だから」の、主体的、かつ、積極的とはいえない各項目の平均スコアについて、すべて男子よりも低く、男女間で統計的有意差が見られたことから確認できる。

以上、本稿では、進学中堅校に在籍する高校生の学部系統の志望理由の特徴について、アンケート調査より検討した。一口に進学中堅校に在籍する高校生の志望学部系統といっても、所在する地域、性別等の属性によって、異なる傾向を示すケースがあることが示唆されたと考えられる。ただし、本調査では、地方部に位置する3つ公立高校の調査であることから、一事例の範囲に留まっており、一般化するためには、今後、より多くの高校での調査が必要であること、また、進学中堅校の学部系統選択の特徴をより明らかにするためには、トップ進学校との比較調査などが必要となる

ことが考えられる。これらの点については、今後の課題としたい。

注

- 1) 進学中堅校については、山村(2019)が「生徒の大半は四年制大学に進学するが、彼/彼女は、一般入試のみならず、指定校推薦や公募推薦、AO入試といったさまざまな入試方法によって進学している高校」と定義している。また、東京都教育委員会は中堅校について、多様な都立高校が存立する中で、一定の学力を備えているが、難関大学への進学率は特に高くない全日制課程の普通科の都立高校と説明している。
- 2) 例えば、全国大学生生活協同組合連合会の大学進学ガイドブックには、大学入学前の疑問として、大学入学までいづらかかるかについて、「大学入学」という用語を使用して説明している。<<https://www.univcoop.or.jp/parents/guide-singaku/p01.html>>（2021年2月1日）

参考文献

- 濱中淳子(2019).「2020年度の大学入試改革」『日本経済新聞』2019年8月12日, 14面.
- 濱中淳子(2019).「女子の学習行動—その特性が示唆する課題は何か—」山村滋・濱中淳子・立脇洋介編『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか』ミネルヴァ書房, 8, 139-150.
- 樋田大二郎(2001).「高校階層構造は変わった—輪切り選抜からお鏡餅選択へ—」『IDE現代の高等教育』2001年4月号, 427号, 34-39.
- 螢雪時代(2020).『全国大学 学部・学科案内』旺文社, 2020年4月臨時増刊号, 24-31.
- ココナラマガジン (2020).『受験・進学』coconala<<https://magazine.coconala.com/12291>>（2021年2月1日）
- 耳塚寛明(2007).「高校の現在」『IDE現代の高等教育』2007年4月号, 489号, 4-9.
- スタディサプリ進路(2017).『進学トレンド』リクルート<<https://shingakunet.com/journal/column/20170327182391/>>（2021年2月1日）
- 東京都教育委員会(2018).『中堅校対策検討委員会報告書 平成14年5月』平成30年2月28日, <https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/administration/action_and_budget/plan/high_school/middle_rank_report2002.html>（2021年2月8日）
- 山田剛史(2012).「大学志望度と進学満足度」『第2回 大学生の学習・生活実態調査報告書』Benesse 教育研究開発センター, 2章(1), 44.
- 山村滋・濱中淳子・立脇洋介(2019).『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか』ミネルヴァ書房, iii.